

まちづくり出前市長室（木津神地区）開催記録

1. 日時：平成24年7月28日（土）19時30分から21時
 2. 場所：木津元村集会所
 3. 参加者：市民 35人
市関係者（市長、副市長、政策監、市民環境部長、市民環境部環境局長、
クリーンセンター管理課、企画課、秘書広報課、危機管理課、市民協働推進課）
-

1. 木津神地区自治振興会会長あいさつ
2. 市長あいさつ
3. 第六次鳴門市総合計画について（企画課より説明）
4. テーマに基づく意見交換
（テーマ：「地区自治振興会とまちづくり」～住民参加の現状と課題～）

会長 木津神地区の出前市長室は、泉市長が就任し、平成22年7月に開催して以来、今回が2度目である。木津神地区は、「水辺の薫るまち」と「伝統文化に基づくまちづくり」に取り組んでいる。新池川沿いは、鳴門警察署から南浜方面に向けて川が整備されているが、最近のEM団子投げ入れの活動等で、周囲が綺麗になってきた。しかし非常に手間がかかり、新池川に清流を取り戻すことはなかなか難しいものだ。堰があり水が流れないために、普通の川ようになかなか綺麗にならない。先日、農林水産課を訪れて話を聞いたが、新池川は県の管理で、3日水をためて、2日流す、といった水流の調整を以前からしているとのこと。水質調査も1年間かけて実施している。少しは良くなったかもしれないが改善することは難しい。新池川は農業用水を兼ねた川なので、普通の川とは少し違う。農業用に水を取り込む関係で、ある程度の水位を保たないといけない。下の堰を開けると、水位が保てないので、農業を営んでいる人からは苦情が出るとのこと。新池川についてはこの程度にしておきたい。

木津神地区では、「高齢者ふれあい集会」を鳴門小規模多機能センターで行い、「ハマボウ祭り」の接待所をふれあい運動場で開設した。その前には、水路の掃除や草ぬきを実施し、皆さんにご協力いただいた。8月8日には「観音踊りと夏の夕べ」を、各団体からの協力をいただき開催したいと考えている。近所の人をお誘いいただき、少しでも賑やかで活気のある「夏の夕べ」になれば良いと思う。また、秋から冬にかけての行事では、11月に「わんぱく相撲大会」があるので、秋の祭りや催しを、伝統文化として楽しんでいただき、少しでも地域のかたが一同に集まり、交流の場になればと思っている。自治振興会ならびに各団体等の協力で、色々な行事を行っているので、これからもご協力をよろしくお願いしたい。

住民参加の現状と課題ということで、若いかたや60歳代のかたに参加していただけるよ

う勧誘していきたい。年を重ねると体力的に厳しい部分があるので60歳代のまだ若い人にバトンタッチをしていくのが一番良いと思っている。60歳代のかたに後継者となってもらうためにも、色々な事業に参加していただきたい。

市長 木津神地区自治振興会の皆さんと、いろいろなイベントで交流させていただき感じるのは、非常に仲が良くて明るいということ。まちづくりをする時には、仲よく楽しくしていかなければいけないと思っている。

先ほどご説明いただいた、新池川については、木津神地区だけではなく鳴門市全体、撫養町中心部とも連携が非常に良くできている。鳴門市チャレンジデーにおいても、EM団子为新池川に投げ入れる活動にご協力いただいた。旧衛生センターでEM団子を作る作業に私も参加させていただくが、皆さんと井戸端会議のような形で話をさせていただき、参考にさせていただくことが多くあった。

また、「新池川をきれいにする会」の皆さんと、鳴門市・徳島県が覚書を締結し、植栽イカダによる水質浄化実験や、芝桜や枝垂れ桜の植栽もさせていただくなどしているが、これは画期的な事業である。

ただ、大津地区の備前島あたりでレンコンの新芽をアカミミガメが食べているという問題が心配である。現在調査中だが、レンコンの収穫量が例年の2割ほど落ちたという話も聞いた。これは、備前島だけの問題ではなく、徳島県全体の問題である。調査方法は、アカミミガメを捕まえて解剖し、レンコンの新芽を食べているかどうか調べるといものだが、新池川でも1日だけ捕獲用のカゴを入れると十数匹入ったと聞き驚いた。

また、「高齢者ふれあい集会」も非常に素晴らしい取り組みである。高齢者、現役世代、若い世代の3世代交流は、いつの時代も続けていくべきであり、子ども達はその取り組みを見ながら「自分たちはどうしていくべきなのか」を学んでいくと思う。総合計画で説明した「人づくり」の中で何が一番大事かという「子どもたちが自分たちで物事を考えて、自分の勉強をどうしていくのか」環境作りをしてあげることだと思う。

各地域で、「ハマボウ祭り・ヒマワリ祭り」が開催され、色々な話をさせていただいた。木津神地区の接待所では、手作りのところてんをいただいたがすごくおいしかった。子どもの頃は、天草を採って、皆がそれぞれ作って食べていたが、そのなつかしい味だった。こういうことも、伝統として、若い子ども達や小学校の家庭科の授業などで生かしていけたら良いと思っている。

わんぱく相撲大会も非常にすばらしい。いつも行かせていただくが感銘を受けている。子ども達がわくわくするような、相撲大会になれば良いと思っている。

今、鳴門市は非常に人口が減ってきており、平成33年には、55,000人まで減るとい推計が出てきているが、それを57,000人まで押し上げるというのが今回策定した総合計画である。市の出生数は年間400人くらいで、人口減少も顕著だが、中でも人口の構成比率が悪くなっていることが問題である。徳島新聞の出生欄と死亡欄を見比べていただいたら一目瞭然で出生が少なく、どうしていくのかが課題である。いろんな伝統行事やイベントで地域を繋いでいただき、そこに人を呼んでくるなど、交流人口増を図りたいと思って

いる。いつも私は、「鳴門市に来てジュースの1本からでも買ってほしい」、一人ひとりにジュースやお土産を買っていただいて、地元に戻った時に、「鳴門は良かったと言ってほしい」と常々言っている。そうすると、人口が減った分、人に来ていただき、経済活動も回っていくと思っている。ぜひともその中で、木津神地区がどういう役割を果たしていけるのか考えていただけたらと思う。鳴門東地区では、大鳴門橋があり海浜があり、それをどう活用するのか。また、木津神地区には、観音踊りやわんぱく相撲、新池川があるので、その特徴を生かした活動をしていただきたい。

そのために、地域ごとにまちづくりのために創意工夫をして活用していただけるように、平成22年度から地域の活性化のために「地域づくり事業活性化補助金」を交付させていただいている。木津神地区についても、地区の皆さんで考えて、地域のために使い道をどんどんステップアップをしていただけたらと思っている。

会長から「現状と課題」として、若者の参加が少ないという話があった。自治振興会とか町内会だけではない。老人会や他の「団体」と名の付くところは、全てこういう傾向があり、若いかたに参加していただきたいという話なので、これについては自治振興連合会の皆様と一緒に話し合っていくことが大事だと思っている。特に、木津全体でみると、古くからの住民のかたと新しく来られた住民のかたが、同じ形で町内会活動、団体活動をしていくのは難しいと感じている。この点も、解決の糸口を探していかなければいけないと思う。木津神地区に限ったことではなく、明神地区や鳴門西地区も同様、新興住宅街を抱える地区であれば、同じような問題に直面しているので、今後も一緒にお話をさせていただきたいと考えている。

5.地域の課題について意見交換

市民 新池川について質問したい。木津地区での下水道整備は何十年くらい先になるのか。

市長 木津地区については、計画エリアには入っているが、現在は、南浜・斎田・桑島の第1期工事終わったところであり、2期工事に取り掛かるところである。通常、1つの工期を7～8年のスパンでやっていくのだが、より効率的に行うために人口が密集している地域からスタートしている。市役所の近くからスタートし、そこからエリアを広げていくことになっているので、木津については、相当の時間がかかると思う。

市民 相当とはどれくらいか。

市長 申し訳ないがわからない。というのは、国から補助金をいただいていたが、一昨年くらいから補助金の額が減少し、4分の3くらいになり、計画も変更しているので、いつになるか、今すぐにお答えすることができない。

市民 下水道が整備されない限りは、新池川が綺麗になることはないと思う。木津地区池の内に、大津地区からの排水が流れてきているので、新池川が綺麗になる訳がない。また、新池川にビニールがいっぱい沈んでいるので綺麗に掃除するように、市から県へ陳情できないか。

市長 「浚渫して欲しい」という話はできたとしても、県も予算の話になってしまう。要望があったことはきちんとお伝えする。

なぜ水が汚れているのかというと、一番影響が大きいのは、単独浄化槽である。単独浄化槽は、トイレの水は浄化して流すが、後の生活雑排水を全てそのまま流しているため、それが環境に負荷をかけている。下水道につないでいただくことが一番だが、下水道未整備地域では、合併浄化槽に転換していただく方法もある。鳴門市も合併浄化槽への転換のために今年から補助金をかなり準備している。1世帯あたり約88万円の転換費用が掛かる、一方下水道への接続には約30万円掛かると言われ、これも場合によっては、80万円、90万円掛かるとも家庭もあるかもしれない。情報が錯綜して、「下水道をつなぐために100万円、150万円掛かる」という噂が流れた時期もあり、下水道に接続する世帯が伸びてこないのが現状である。下水道につないでいただいて、きれいな水を流していただければ、新池川も必ず綺麗になっていくと思っている。下水道整備には、しばらく時間がかかるので、合併浄化槽のほうに転換していただくことも方法の1つであると思う。

市民 中山が伐採で禿山になってしまっている、大雨が降ったら山の赤土が新池川に流れ込み溜まってしまうので、それも県に取ってもらうように要望してほしい。

市長 要望はさせていただく。去年、台風16号が上陸した時にも新池川の水が溢れそうになり、何らかの避難勧告を出す必要があるかと思った。夜中に水位を見に行くと、非常に高いところまでいったが、堤防を嵩上げた場所よりは水位が下だったので、大丈夫だと判断した。動きの遅い台風で雨がずっと降ったため、水位が上がりポンプ場もフル稼働させた。

市民 国の農地防災事業で、新池川にパイプはつながっていないか。

市長 パイプは来ているが、新池川にはつながっていない。この事業も時間がかかっているため、これからの説明になると思う。

市民 農業用水がたくさん余っているのではないかな。もったいない。

市長 試験的な通水が部分ごとにはできているようだが、全体的には完成していない。

市民 新池川の水門の開閉回数は増えているのか。

市長 水門は、市の農林水産課も関わっている。水門を開けたからと言って、即、浄化されるわけではないが、3湛2落のサイクルで以前から水門を開閉している。県が平成21年度から水質改善方策として導水実験をスタートし、水質改善に効率的な水門の操作パターンを、順次、調査検討を行っている。実験の結果として西の須樋門あたりは若干綺麗になっているが、下流のほうでは変化は小さいとのことである。開閉のタイミングや、それによりどれだけの水量が循環すれば良いか、方法を探っている段階のようである。

会長 旧衛生センターの撤去について、もう一度説明を受けたいので、よろしくお願ひしたい。

市長 この件については、担当から説明させていただく。

クリセ管理課長 旧衛生センターの解体撤去事業について、概要を説明させていただく。まず、旧衛生センターについては、廃棄物焼却施設があるので、ダイオキシン類でどれほど汚染されているのかを調査する必要がある。本年度は、廃棄物焼却施設の解体にあたり、解体作業に従事する労働者のダイオキシン類へのばく露を未然に防止するため、焼却炉本体や排ガス処理施設に含まれているダイオキシン類調査や、焼却施設付近の土壌調査など、旧ごみ処理焼却施設を解体するための基礎調査を「労働安全衛生規則」や「廃棄物焼却施設

内作業におけるダイオキシン類ばく露防止対策要綱」「廃棄物焼却施設解体作業マニュアル」に従って、実施することになっている。

これは、焼却炉本体やその周辺施設にダイオキシン類等の有害物質が付着している場合、これらが設備の解体に伴って作業場全体に飛散する恐れがあるので、施設内の空気中のダイオキシン類濃度や、解体対象施設内部の付着物に含まれるダイオキシン類の含有率の測定及び分析を行うものである。また、ダイオキシン類に関する調査と合わせて、施設のアスベスト使用の有無や施工箇所等の調査も行い、施設の解体作業従事者のダイオキシン類等へのばく露を未然に防止するための解体撤去工事の方法等を検討していく。

本調査に要する費用は約 500 万円、調査範囲はお手元の資料で赤く示した区域で、調査期間は本年 9 月から来年 3 月末までを予定している。この調査結果を基に、汚染物の除去方法や施設の解体方法等を選択し、来年度以降に解体工事の設計を行い、早ければ平成 26 年度中にも解体工事に着手したいと考えている。なお、本調査の結果や解体工事の詳しいスケジュール等については、その都度、周辺地域の皆様にご報告したいと考えているので、よろしくお願ひしたい。

市民 費用は約 500 万円ということであるが、解体するのに要する期間はどれくらいか。

クリセ管理課長 解体費用については、これまで言われているのは 2 億 5000 万円とか 3 億円である。平成 25 年度に解体工事の設計を行い、実際の解体工事にかかるのは平成 26 年度からである。工事の期間については、2 年間程度を予定している。今回の調査結果次第で、若干その期間が変わるかもしれないが、今のところは、そういうスケジュールで進めたいと考えている。

市長 建物が旧衛生センターなので、先ほど説明したように、色々な調査をしたり、労働安全衛生規則やその他色々なルールがある。市庁舎の隣の消防庁舎を解体するのは訳が違い、そのルールに従って解体していかなければならないので、そのために今年の 9 月からその調査に入らせていただく。来年の 3 月末ごろまでに調査を終え、調査結果を見ながら、どのようにすれば一番効率的に解体できるかという設計を、平成 25 年度 4 月以降から実施させていただく。その後、平成 26 年度以降に解体工事を始めさせていただこうと思っているので、すぐに解体して欲しいという気持ちはよく分かるが、そのルールに則らせていただくために、若干時間が掛かる。今回の調査費用にまず 500 万円を予算として付けて、設計費も付け、解体に必要な費用を順次予算化させていただくので、よろしくお願ひしたい。

市民 調査が来年の 3 月末で終わることはわかった。設計をした段階で、住民への説明はあるのか。

クリセ管理課長 調査結果が出た段階で、住民の皆さんにご報告したいと考えている。

市長 調査結果が出て、設計の段階に入ればご説明させていただき、設計をすれば大体のスケジュールが出てくるので周知させていただく。知り得る情報はどんどん出させていただく。これが、自治基本条例で言う「情報共有」であり、情報を聴いていただく必要があるし、知っていただく必要があると考えている。

市民 図面には、バグフィルターという機械や煙突が描かれているが、そこにはたくさん溜まる

のか。前回の出前市長室でパンフレットを配らせてもらったが、この地図に入っていない。たくさん溜まるところが描かれていたが、今回は入っていないのでは。

市長 それを今回調査させていただこうと思う。

クリセ管理課長 調査する場所は、ダイオキシン類が付着していると予想される場所である。まず、焼却炉本体、排熱ボイラーとか、煙突、煙道、除塵装置、これがバグフィルターになるのだが、こういうところについても、調査の対象にしたいと考えている。

環境局長 補足説明になるが、ご質問で「バグフィルターのところに溜まっているのでは」とのことだが、平成 11 年ごろ大阪府能勢町で、開放型の冷却塔とその周辺でダイオキシンがかなり付着しているということがあった。鳴門市も古い同じ形の施設であったので、それを封じ込めるために改良して密閉型にした。その際も、地域のかたに来ていただき、その周辺の土壌にどれだけのダイオキシンがあるのか調査させていただいた。確かに土壌の上部にあったが、完璧に封じ込めた。今回調査して、早ければ平成 26 年度から解体するときに、封じ込めているものを全て撤去する予定で考えている。

市民 2 年前に文書を渡しているが、全部封じ込めているとは聞いていない。角の南側の建物はまだ残っていると思う。封じ込めるのは、アスファルトをすれば大丈夫だと聞いた。アスファルトの下にも何か残っていると思う。アスファルトをのけてまで撤去できるのか。

環境局長 ただ今のご質問だが、これも解体の際に周辺の調査とあわせて、どれだけあるのか調べたいと思う。この度は、できれば、建物周辺エリア内の土壌調査も考えている。

市民 赤く図示している部分周辺の調査がされるのか。

クリセ管理課長 今回の調査については、焼却炉本体、焼却炉およびその周辺の附属施設解体に対する調査なので、赤く図示している区域である。調査結果で大きな数値が出た場合は、解体工事の際に調査するという事も考えている。

会長 以前、木津児童館の耐震診断と建て替えについて聞いたと思うが、これにも順番があり小・中学校、幼稚園、そのあとで、いつになるかわからないとのことだった。あの建物は木造で古いため、児童が長時間いるので心配である。今年の 4 月に自治振興会と社会福祉協議会、民生児童委員が集まって運営委員会を開き、そこで、指導員から「耐震診断をして欲しい」との話が出た。市民の住宅も耐震診断を推進しているのだから、市の建物も率先してすべきではないかと思う。

また、小学校から児童クラブに行くには 1 キロメートルほどあり、旧県道を通るので、交通事故に遭う危険性が高い。そのため小学校の空き教室があれば、そこに児童クラブを設置していただけないかと思う。生徒の下校時に先生が誘導し、小さい 1 年生はランドセルを背負って汗だくになり通っているので、なかなか大変だという印象を受ける。建て替えが無理であり、第一小学校に空き教室があるならば、そこに構えてもらうのが先生の負担も軽くなるし、子どものためにも良いのではないか。市長のお考えを聴かせていただきたい。

市長 木津児童館は、昭和 39 年に建設し約 48 年経過している。昭和 36 年に市民会館ができた。そして、昭和 38 年に市の本庁舎ができています。それに続くくらい古い建物である。48 年経過している建物を耐震診断し、それを耐震改修できるものかどうかと言われれば難しいかも

しれない。逆に、建て替えとなると、敷地が借地なので問題もある。

鳴門市としては、耐震診断は、小・中学校から順番に行いたい。その後、体育館・幼稚園という順番で行う予定である。中学校については、第一中学校を除く全ての中学校で耐震化が終了しており、小学校については、撫養町の3校が設計段階に入ったので、来年に耐震化が終わる。

第一中学校については、改修ということで、新しい校舎を建て直すことに決めている。時間的には平成28年度までかかる。それも、設計にかかっていっているので、お約束した通り、小・中学校、そして体育館についてもそろそろ耐震工事の予算を付けていかなければならず、その次は幼稚園になる。その後、公民館や集会所といった市の建物に着手し、市営住宅も直していきたい。色々なところで耐震を行っていきいたいと考えているが、順番から考えると、木津児童館は非常に厳しい状況になる。

木津児童クラブは、木津児童館を使っているし、撫養小学校の児童クラブは、南浜児童館を使っている。他の児童クラブについては、公民館の一部を使っているところや、黒崎小学校や鳴門東小学校は、学校の空き教室を使っている。本来は、空き教室を使っただけことが一番良いと思っている。

先ほどのお話のように、学校から児童館への距離が長いので、行く途中に交通事故に遭ったり、車が登下校時の列に突っ込む事故も実際に起きているので、できることであれば、第一小学校の空き教室を利用していただけのことが一番良いのではないかとと思っている。第一小学校については、すでに耐震化も終わっているのだから、安全な場所であると思っている。ただし、空き教室が実際にあるのかということがまず1点、そして、児童クラブは運営委員会で運営しているので、運営委員会の皆さんが賛同していただけるのかどうか、保護者のかたもどう思われるのか。そして、子ども達がどう思うのかということも課題である。その課題を一つひとつクリアしていけば可能性はあると思っている。利用者側の考えがまとまり、再度運営委員会から相談していただけたら、我々としても対応を進めさせていただきたい。そして教育委員会にも話を持っていかなければならないと思っている。

先週、撫養児童クラブの運営委員長が来られて「撫養小学校に児童クラブを移したい」という内容の要望書をいただいた。私のところに来る前に、教育委員会にも行って、「撫養小学校にお願いできないか」とのことだったので、まさに今回と同じ話と思う。まずは、地元の児童クラブで話し合い、教育委員会や私に要望書を持って来ていただけたら、そこから話がスタートできると思う。

会長 市の方も、現状では建て替えをするのは無理だということである。指導員と運営委員会、保護者で話を詰めていけたらと思う。そして、市や教育委員会に第一小学校への移設について要望していきたい。

市民 私は、原地地区で頼まれて日赤の社費を集めているが、ある人から「日赤の支部長をしている市長の顔も見ないで社費は出せない」と言われた。また機会を見つけて、原地に一度来ていただきたい。

市長 わかった。毎年お願いしていることなので申し訳ない。

市民 サルの被害がすごくて、大麻などでは農業をやめた人がいる。桃を作っている人も、電線を張ったり、いろいろな対策をしているが、全部取られてしまうらしい。消毒の費用もかかるのでいったい何をしているかわからない。先日も、トマトが熟れるまで待っていたら無くなっていたので、隣同士で喧嘩が起こったが、それもサルの仕業だったとのことだ。大麻の2番札所のあたりにはサルの群れが30～50匹くらいいる。集団で作物を取っていくので、農業などやっつけられない。本当に北灘や大麻は気の毒である。早急に何か対策をして欲しい。

市長 おっしゃっていただいた通り、北灘町に対策として電気柵を付けたりしているが、すぐにそれを壊したり慣れてしまうらしい。イノシシやサルを鉄砲で撃ってもらおう対策もしているが、数が全然減っていない。ウリボウを捕り若干少なくなったが、すぐにまた増えてきたと聞いている。猟友会の人をお願いしているが、「サルは人間に近いので撃ちたくない」とのことだった。市に何ができるかと言えば、適切な方法がないというのが実際のところである。

去年、「サルがどこに出没しているのか」という調査をさせていただいたが、抜本的にどこまで解決できるのかというところ難しいところである。私も県に行き現状を伝えて、「少しでもご尽力を」と話させていただいたが、「サルやイノシシもよくわかるが、西のほうではシカがいる。シカの被害も深刻で、県としてはまずはシカからだ。」と言われた。しかし我々はまずイノシシとサルだと報告させていただいた。

四国は4県がすべて山でつながっている。それぞれの県でシカ対策をやっている現状があり、高知県や愛媛県がシカ対策にお金をかければ、そちらの県にいたシカが徳島県に流れ込んでくるという状況のようで、徳島県もシカ対策に重点を置いているとのことであった。美馬市では、廃校になった学校でシカの食肉工場をしているらしい。どんな対策が良いのか、お答えができない現状であるが、常に県と協力しながらやっていかなければいけないことだと感じている。冒頭のカメの問題もあるので、色々な対応をしていかなければいけないと思っている。

市民 私は猟師をしていて、鳴門市有害鳥獣駆除対策協議会のメンバーとして活動しており、イノシシ・サル・カラスの対策もしている。サルは市長も話したように人間に近いので、撃つとなると心理的にも抵抗がある。イノシシは向かってくるので、撃ってもあまり抵抗はないが、サルだけは難しい。イノシシは、困っているのであれば言って欲しい。罠を使ってかなり捕獲した。金比羅さんのところだけで40頭ほど捕った。協力はしているが、サルはやはりできない。

市民 旧衛生センターの解体に3億円ほど掛かるとのことであるが、金額は大体決定したのか。

市長 設計をしてみないとわからない。

市民 2年前の四国市長会で要望は伝えていただいたと思うが、どうだったか。

市長 平成21年10月に引き継がせていただき、その後色々聴かせていただいた。平成22年に徳島県内8市の市長会で賛同をもらい、その年の四国市長会で、徳島県代表として話をさせていただいた。そこでも賛同をもらい、全国市長会に持って行かせていただいた。

全国の市長会でも意見交換し、最終的に平成22年度も23年度も国への要望に上がったが、

国の回答は、特別交付税の中に算定されているので、新たな補助金についてはなかなか「うん」と言っていただけない。

今回は、単独の費用になるが、先代の市長もお約束しているので、やっていかなければならない。先ほども説明したように、調査から始めさせていただくための500万円である。調査のあと設計費を計上させていただき、その後ある程度の解体工事の総額が出てくるので、予算化させていただきたい。当時、2億から3億円であるということだったが、現実には調査の結果が出て設計が出てこないとわからない。努力はさせていただくが、結局、国のほうからの補助金はないとのことである。

市民 総合計画について質問する。木津地区は、農業をしている人が多いが、後期高齢者が多い。

そこで、木津地区に企業が来たり、発展していくような施策をお願いしたい。

市長 総合計画のアンケート調査の中で「満足していない」「もっとやってほしい」として「雇用と企業の誘致」の答えがあった。それを受けて24年4月から、まずは産業を中心に考えていこうと組織を再編成した。今まで、商工観光課として、商工業と観光を一緒にしていたが、観光振興を中心にする課（観光振興課）と中小企業や雇用・地場産業を考える課（商工政策課）としてふたつに分けて、それぞれに力を入れる対策をした。

先ほどご説明の中に「企業誘致をして欲しい」ということがあった。今、鳴門にある大きな工業団地は、明神の複合産業団地と中山のソフトノミックスパークだが、中山のソフトノミックスパークについては、ほとんどが埋まっていて小さな区画が3つくらい残っているだけ。複合産業産地は、全区画完売している。大きな企業を呼んでくると、雇用が増えるので、全国各地で大企業の誘致競争が激しい。そこで、鳴門市が考えなければいけないのは、国内の地域間競争だけではなく、中国など海外との競争があるということ。誘致の時、「鳴門市や徳島県では固定資産税等の優遇措置がある」という話を出す、中国では「社屋まるごと建てるから来てほしい」という呼び込みをしている。ただ、ある企業のかたが「海外に出ると技術だけが流出して、終わってしまう可能性があるから行きにくい。しかし、大量生産するためには安いところに行かなければならないのでジレンマがある」と話されていた。

今回、ソフトノミックスパークに「YGK」というテグスを生産している釣具会社が来てくれた。世界のシェア約8割を賄っている会社で、大きな特許もたくさん持っている。そこも、中国から誘われたが、結局は技術の流出を恐れ、鳴門に来てくれることになった。鳴門市としては、競争も非常に激しく、大企業を呼ぶこともなかなか難しいので、地場の中小企業をもっと応援して、中小企業に頑張ってもらい、雇用を増やし、税収を上げていく方向に変換していこうと思っている。広報などにも掲載したが、「エコノミックガーデニング」という言葉で表している。庭を作るような形で経済的な成長を図っていこうということで、20年くらいかけて長いスパンでやっていくということが我々の考え方である。時間はかかるが、地場の中小企業と協力しながらもっと雇用を増やしていけるような環境を作っていきたいと思っている。

農業の話は、京阪神の卸売市場にトップセールスに行った時、「鳴門の品物はすごく良いので出荷してくれたらいくらでも売ります」と言っていた。しかし後継者不足で思う

ように出荷していけないのが現実のようだ。婚活をしたり、「農業は儲かる」とPRしなければいけないと感じている。そのためには、販路も考え直さなければいけないし、今話題の「農産物を加工して付加価値を付ける」ことも考えていかなければいけない。梨については、梨のシャーベットを作っているかたもいる。まず原点に立ち返り「鳴門市は第一次産業のまち」と認識してやっていくので、その点もよろしく願いたい。

市民 木津地区の都市計画では、「水辺の薫るまち」と「伝統文化に基づくまちづくり」ということである。昔の木津村であれば、予算もたくさん付けていただいたが、今年度、どんな予算が付いているのか見てみると、「固定資産税が持って行かれるだけ」という印象を受けた。

伝統と文化と言えば、金刀比羅さんと長谷寺である。あそこに道を付けて広い道につなげたい。これは土地の交換分合で行えるのではないか。ウチノ海から明神に降りてくる道路の突き当りに「国有地を売ります」とある。あそこは海岸沿いの一等地だから交換分合で確保して欲しい。鳴門市の目玉になるのではないか。

もう一点、中山にバスの駐車場がある。あそこがゴミで汚れている。10年、20年と溜まっている。掃除して欲しいと市に言っているが話が進まない。15分もあればできると思うのだが。

市長 交換分合というのは、ひとつの手法だが、相手方もあるので難しいかもしれない。交換するにしても相手方が納得できる価値がなければならぬなど問題もある。交換分合は、考え方としては、理解させていただいた。

もう一点については、現場を見ていないので、一度現場を見させていただき、担当課と話をする。難しかったら難しいと言う、やれることであればやろうと思う。

役員 今日は、市長はじめ行政から、色々な情報を提供していただいた。私の家の前のどぶが綺麗になった。なぜ綺麗になったのかと言えば、お年寄りが多く、油ものや洗剤を使わないからだ。新池川沿いも将来はそうなるかもしれない。

今、国ではアメリカのオスプレイが山口県に来ると話題になっている、あれは16年前に、日本とアメリカが約束したことだ。約束しているのに、日本は「していない」と言って今日まで来た。アメリカからすれば、「約束しているのに、今ごろ何を言っているのか」という感じである。約束事は守らなければならない。鳴門市は前々市長の時代から、「衛生センターの運営は地区の皆様と相談してやっていく」と約束している。泉市長が就任され、調査や工事をこれからの3年間ですると言ってくれた。それからどうするかということはまた問題になる。火葬場もあるし難しい問題である。火葬場があっても発展している地域はある。これを機に、より良い木津神地区にしていきましょう。

市長 今日は、色々なご議論をさせていただいた。お答えできなかったこともあり、やろうとすることを聴いていただいた分もある。誠心誠意頑張ってまいりたいのでよろしく願いたい。特に、鳥獣被害については答えることができなかったのだが、できることから少しでもやらせていただこうと思っている。

以 上